

民主化闘争情報

No. 971

2018年2月21日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR東労組は、既報（民主化闘争情報 No. 970）のとおり、組織内ヘスト権行使の具体的な準備指令を発しており、着々と「スト権行使」に向けた動きを加速させている。

現在、JR東労組のホームページでは、「定期委員会以降、一部マスコミ報道で『対立路線回帰』などとストライキ戦術行使だけを悪宣伝する動きが見られます。（中略）労働三権によって保証されている団体行動権（争議権）を堂々と掲げて要求を勝ちとることを決定したまで（中略）これは労働組合として当然のたたかい」などと、もっともらしい主張を掲載しているが、世界に冠たる鉄道会社・JR東日本では、第一組合が、自ら締結した「労使共同宣言」の当事者責任を堂々と無責任放棄し、不穏な活動を展開している。

JR東日本会社とJR東労組(JR総連の最大単組)の 「労使共同宣言」は有名無実化、「破棄」状態！

既報（民主化闘争情報 No. 946）のとおり、会社とJR東労組は、締結した「21世紀労使共同宣言（2001年）」に基づき、「会社内における問題は経営協議会や団体交渉の場等を最大限活用し、あくまでも平和裡かつ自主的に労使間の真摯かつ率直な話し合いにおいて解決を図る」とある。こうした姿勢は、国民・利用者に散々迷惑をかけ、負担を強いて誕生することとなったJRの労使としては当然であろう。だからこそ、労使共同宣言は「労使関係のあり方に関する憲法」として、その時々的重要な節目で相互に確認・締結されてきたはずだ。しかし、JR東労組の推進する「国鉄時代回帰」の非民主的労働運動によって、労使共同宣言は有名無実化しており、もはや「破棄された」状態に等しい。

不可解極まりないスト権確立・行使の目的と動向～労使でウヤムヤにしないように！～

JR東労組は、公共交通たる会社の「社会的使命」を逆手にとって国民・利用者を人質にし、労働者の権利ばかりを都合よく持ち出し「悪用している」としか言いようがない。「権利」そのものは否定しない。しかし、今回のスト権確立の目的は「『未来永劫にベア方式は一律定額とすること』の実現」としている。ベア方式（賃上げ原資の配分方法）ならば、労使で真摯に話し合い決定すれば良い事柄ではないか。国民・利用者に迷惑をかけてまで、ストを実施する理由となるのか、極めて不可解だ。極左過激派集団「革マル派」が浸透していると言われる組織の真の目的は、実は、自らの組織温存にむけた会社幹部人事への牽制、はたまた戦闘的運動の訓練、組織内引き締め等、別にあるのではないかと。

いずれにせよ、JR東労組は、自らの運動の正当性を声高に主張してスト準備を組織的に進め、強権的に闘争指令を発して組合員を追い込む中で、「目的」を果たさない限りは、まさかの「スト回避」をするということはないだろう。目的を果たすことなく拳を振り下ろすことは、自らの主張をねじまげ、自己否定することになるだろうし、流石にいつもの変てこな理屈の構築も追いつかないだろう。一方で、会社がJR東労組の世間ズレした要求を飲むことも考えにくい。双方がいつの間にか「密約」を交わしてウヤムヤにするようなことは、決して無いとは思いますが…。通勤・通学時等の大混乱は勘弁して欲しい。

良識ある組合員の皆さん、JR東労組に見切りをつけ、ジェイアール・イーストユニオンへ！

すでにJR東労組内部では、不可解な運動に見切りをつける組合員が、この1週間程度で大量に脱退し続けていると聞く。組合員にはぜひ勇気ある決断と行動をして欲しい。